

“サンパチ豪雪”と「金沢市の下水道」

昭和 38 年 1 月から降り出した雪は記録的な積雪となり、バキュームカーの出動不能で市民は困った。下水道はその 1 年前に認可を得ていたが「サンパチ豪雪」が引き金になって事業が進み、昭和 44 年 4 月には浅野処理場(現・城北水質管理センター)が供用開始。今では普及率も 90%(4 処理区)を越え、積雪には処理水も一役買っている。下水道が整備されるにつれて浅野川の水質も改善され、昭和 62 年からは浅野川の川面にせり出した浮舞台での「浅の川遊園会」が新たな春の風物詩になっている。桜の花も満開だ。

金沢市企業局(水道・下水道・ガス等を運営)では「下水道 21 世紀ビジョン」に基づいて、平成 27 年度の“下水道事業の概成”を目指しており、合流式下水道緊急改善事業(市中心部)、高度処理の導入、雨水対策の推進(分流域の下水道雨水整備率は 49.4%)、郊外の集落排水整備、下水道資源の利活用等に取り組んでいく。



“いいね・金沢”小京都

JR 金沢駅に下り立つと鼓(つつみ)をイメージした巨大な木製の門の傍らで“いいね・金沢”の電光板が点滅している。金沢城、兼六公園、友禅流し...と観光資源に恵まれた金沢だが、最近では戦災を免れた情緒豊かな街なみが人気。そこに女川(浅野川)が流れている...。浅野川(大野川水系)は富山県の県境から流れてくる全長 32.5km の 2 級河川だが、以前ほど「友禅流し」が見られなくなったのは「友禅団地」が造成されたためという。

春の「浅の川遊園会」(前述)の次ぎには夏の「加賀友禅燈ろう流し」がやってくる。浅野川の清流に 1,000 個以上の燈ろうが流れていき、流された燈ろうは実行委員会が改修する。金沢城・兼六園のライトアップは春夏秋冬だ。雨が続いた翌朝の浅野川は濁流で、観光客は残念そうだった。

